



株式会社 石川鍍金工場
会長 丸山 信彦

弊社の創業は大正6年（1917年）で、今年で108年目となります。もとは東京府豊多摩郡渋谷町（現在の東京都渋谷区恵比寿の旧豊沢町）にて産声を上げました。

当時は第一次世界大戦中で、好景氣にて多く生産される工業部品に欠かさない技術として、めっき（「鍍金」「めっき」です）が重視されていました。めっきとは、「ある金属に別の金属の特性を付与する」表面処理技術です。例えば産業機械の部品には、「加工が容易」「長持ち」「低

コスト」などという諸要素が求められますが、全てを満たす素材はなかなかありません。そこで「丈夫で加工しやすい」金属である鉄で部品を作り、これに「腐食に強い」金属である亜鉛を被覆する（めっき）ことで、充分な性能の部品を「安く調達する」ことができます。あの奈良の大仏も、銅素体に金めっきが施されており、汎用性の高い技術です。

創業時にはまずめっきを主力商品とした後、当時の最先端機器であったラジオや通信機向けにカド

弊社108年の歴史は、工場移転と拡張を重ねながらのイノベーションと変革の繰り返しで、都度時代の要求を見据えた新技術、新設備の導入に取り組んできました。私が5代目社長を務めた際に

は、無電解ニッケルめっきや電解研磨の導入に取り組みました。

現在の6代目体制においても難処理素材への表面処理技術の研究や、生産管理のDX推進など、常に新しい取り組みへ挑戦しています。こうした長い伝統を大事にしつつ、より多くの皆様へ「めっき」という技術の重要性をお伝えしていけるよう、全社一丸となって邁進していく所存です。今後とも宜しくお願いいたします。



市内事業所の
個性豊かな社長さんや
店長さんなどの意外な交友関係をご紹介します。
いつかあなたにも繋がるかも？

いいともバトン：No.44 登場の横山満さん ➡ 中林辰之さん



左／中林辰之さん 右／金子祐三さん

いいとも No.45

「理容美容なかばやし」（新町）代表の中林辰之さんの「とものわ」は、「金子米店」（新町）代表の金子祐三さん。お二人は幼稚園が一緒の幼なじみ。新町という同じ町内で育ち、高校までずっと同じ学校に通った、まさに「腐れ縁」と言えるほど、長い付き合い合いです。一度は東京で、それぞれの仕事に励んだそうですが、「若い時の苦勞が、今の自分たちを作ったよね」と、当時の経験と学びを振り返ります。その後は地元・新町に戻り、家業を継ぐことになりました。今ではお子さん同士も同級生ということで、学校行事などを通じて自然と顔を合わせることもあるそうです。「こうして“かもいろ”と一緒に載るのも何かの縁だね」と笑顔で話すお二人。これからも若いパワーで商店街を盛り上げていてください！